

## 令和5年度 第1回天理市社会教育委員会議 議事録

(日 時) 令和5年7月25日(火) 午後2時～

(場 所) 市役所 533A会議室

### 1. 委嘱状交付

### 2. あいさつ (教育長)

みんなの学校プロジェクトとして、今まで各地域が大事にされてきたことを残すため、これまでのことを見直し、それを財産に、新しい取り組みを進めていきたいと考えている。そこで、子どもたちの自尊感情ややりがい、居場所づくりになるという視点で、社会教育活動もリニューアルしていただきたい。

### 3. 社会教育委員の紹介について (自己紹介)

### 4. 社会教育委員会議の運営について

### 5. 議長・副議長の選出について

社会教育委員会議 議長 石津 雅恵 副議長 辻沢 正博

### 6. あいさつ (議長)

### 7. 協議事項

#### (1) 各機関・団体への派遣委員の選出について

○ 天理市人権教育推進協議会 (代 表) 東 武司  
(副代表) 西田 智也

○ 天理市人権ネットワーク会議 (1名) 杉田 美恵

#### (2) 令和4年度活動報告

#### (3) 令和5年度活動計画 (案)

【研究テーマ《子ども会育成事業のあり方について》】

#### 〈事務局〉

児童数の減少、市子ども会連絡協議会の役員の後継者不足の問題もあり、市子連所属の子ども会単位数や会員数が減少している。そこで、市子連や子ども会育成事業について、今後どうしていくべきかを令和5、6年度の社会教育委員会議で研究テーマとして協議していきたい。市としても限られた予算の中で、市子連や市子連に加入する一部の子ども会にのみ補助金を出している現状はいかがなものかという思いがある。今までのありようではやっていけない。少ないお金でどのように工夫をし、形を変えて大きな成果を出していくのがよいかを考えるべきかと思う。このことについて委員さまよりご意見をいただきたい。

#### 〈委員 (市子連会長)〉

子ども会の現状はこのようなものであることをまず理解して頂きたい。

今年に入って解散動議をあげた。その理由は、市から補助金 416,000 円を頂いているが、全体の 1 割ぐらいしか子ども会に入っておらず、子ども全部に還元出来ていないため。(子どもは入りたいが、親が負担のために入らないので、子どもの会員数が自動的に減ってきているという悪循環がある。) もうひとつの理由は、この状態で続けていくと親の負担が一部の人にかかり、役をもつ親がいなくなっていくことである。

市子連がなくなっても地域単位では活動を続けることはできる。子ども会という組織は繋げていきたい。

市子連の良い点は子ども会安全共済会の保険制度である。賠償責任保険もついているので何か事故があった時に親、育成者、指導者の責任が保険でカバーされるところがあるため県の保険は大事である。県は、県の会員でなければ保険は認めないという流れできた。県の保険に入りつつ、独自で子ども会を運営していくということはどうできるか。

また、県とのつながりを持つ繋ぎ手を変えていくというような、組織変革もやりながら考えていきたい。

ふりだしに戻してどういう方向が最適か考えていく。そういう意味で発信させてもらいたい。必ず辞めるわけではないが、辞める方向で考えた場合にどのような方法があるのか、この場で協議いただければ。

### 〈委員〉

- 子どもたちも忙しいので、メリットがないと子ども会には入らない。
- ジュニアリーダー養成講習会は 5.6 年生以上が対象なので、習い事や中学受験などで忙しいためなかなかいない、シニアリーダーも参加が少ない。
- 大きな行事の時は学校にも行事が重ならないように協力してもらうことを要求するなど、学校とタイアップしながら子ども会を行うことを考えないといけない。
- 小学生のみでなく、こども園や幼稚園の子たちなど、幅広い年代にも緩く組んでいくのはどうか。小さい子は予定を合わせやすいため来て貰える。時代に合わせて変えていかないといけない。
- 担い手を地域の団体の人材を活かす等、地域活性も今後必要なのかと思う。
- 市役所の中でできることもあるが、これからはそれだけでは成り立っていかない。みんなが持っている知恵、技術を出し合い、地域を支えていく、そうすることで自分自身もいきいきと生活していくということも大事なこと。
- 子ども会なのに親の会になってしまっている。子どものためにどうつないでいくかを考えないといけない。
- 将来的に専門的にできる人がリーダーになって、専門的にできる子どもを育

てたい。子どもが子どもを教えるということが理想。

○式上公民館でこども食堂をされて、そのあとに指導者みたいな形で来ていただいていた。そういうところには親もたくさん来ていた。そういう形でつなぐのもいい。

○子ども会というのは異年齢の集団の交流が目的。これが原点。小さい子はあんなお兄ちゃんお姉ちゃんになりたいなという憧れを持ったり、上の子は小さい子を見る優しさや思いやりを持った。しかし、今は全部親が準備しており、それが親の負担に繋がっている。

○昔青年団も解散しかけていた、それも参考になるのでは。

○大人としては、何かあったら困るし、よその子も見ているので余計に責任が重くなり、負担となる。

○自発的に何かするというのが大事。

○子ども会に入っていなくても保険に入れたらよい。

○市子連に入っていなくてもイベントに参加できるというものがあれば。

○市子連のイベントに誰でも参加できるように緩めてしまうと、子ども会に入る意味がなくなってくる。

○会議の回数が少なく、意見をまとめて仕上げるのは難しく、結果に繋がらない。前向きな方向でフィードバックしてもらい、結果を活かせるような社会教育委員会にしていきたい。

#### (4) 令和5年度まなび推進課地域学習係の主な事業

### 8. その他

次回の定例会議の予定について

11月頃に予定。日程が決まり次第事務局から連絡。